

能・第二

能役者が身に着ける複雑で繊細に織りあげられた衣装は能装束と呼ばれているが、1つの衣装には鬘や帽子、いろいろな種類の着物など、7つ以下の異なる種類の付帯要素が含まれている。能装束は15世紀に採用され、裕福なパトロン（将軍を含む）が能の上演を頻繁に始めた。お気に入りの役者には上質な絹の衣装を褒美として与えた。舞台上でこの衣装を着ることで、能役者は上流社会での人気を示すことができた。時が経つにつれて、この贅沢な衣装が当たり前になり、つつましやかな漁師などの最も下賤な役柄にでさえ、優雅な衣装を着せて上演させるようになった。

装束は、大きく2つの種類に分類できる。日本的文様（和様）と中国文様（唐様）である。和洋は、花柄や季節をテーマにした控えめな模様が特徴的であり、唐様は、獅子や龍などの様式化された動物を特徴とする大胆な模様が特徴的である。

伝統的に、能役者は自分の衣装を選択するが、特定の能面は特定の役柄で決まっており、最終的に特定の役柄を具現化するようになったのとほとんど同じように、能装束の要素は純粋に色と型を通じて役柄の年齢、富、社会的地位を表すことができる。彼らの衣装、たとえば、平安時代の長くてゆったりとした直垂と烏帽子を被った男の役柄は、物語では常に重要であるが、裏地付きの狩衣は、より印象的で威厳のある役割を示し、裏地なしの水衣は、貴族の息子または神を偽装した役柄を表現している。女性の役柄の装束に赤が含まれている場合、それは若さを示し、赤のない装束の場合は老女を表し、または威厳のある存在を表現する。

博物館のコレクションは能に関するあらゆる分野にわたり、主に20世紀初頭に井伊家15代目当主の井伊直忠（1881-1947）によって委託または収集された装束が含まれている。